

令和２年度 つたえる、感じる、つながる、森林×SDGs プロジェクト事業 調査報告書構成案

１．全体構成

概要編と詳細編の２部構成とする。

I. 概要編

1. 本事業の概要
2. SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査
3. メディア・企業との競争による「森林xSDGsプログラム」の発信
 - (1) 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (2) 2050年の未来予想図ワークショップ
4. 今後の展開、提言

II. 詳細編

1. SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査
2. メディア・企業との協創による「森林xSDGsプログラム」の発信
 - (1) 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (2) 2050年の未来予想図ワークショップ

別添資料：

- 検討委員会議事録
- 教育イノベーション質問票例、調査分析結果
- モニターツアー配布資料、広報素材
- モニターツアーアンケート結果
- 「2050年の未来予想図ワークショップ」実施マニュアル

２．詳細編

(1) 「SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査」の構成

1. ポスト・コロナ時代がもたらす新しい機会
2. 調査概要（目的、方法、調査内容）
3. 調査結果
 - 3.1 現状と課題
 - (1) 幼児教育・学童保育
 - (2) 青少年教育

- (3) 社会人教育
- (4) 中間業者利用の現状

3.2 利用者目線で見える新しい試みと機会

- (1) 森林空間を活用した幼児教育・保育における新しい試み
 - ① 森林空間を活用した森のようちえんや学童保育などの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者（保護者）の声
 - ④ モニターツアーからのフィードバック
- (2) 学校の枠組みの中での森林体験教育における新しい試み
 - ① 総合学習や教科学習、学校行事での森林体験教育
 - ② 森林体験・地場産業・地域振興・課題解決などを組み合わせた新しい試み
 - ③ ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ④ 学校関係者の声
 - ⑤ ワークショップからのフィードバック
- (3) 学校の枠組みの外での森林体験教育における新しい試み
 - ① サマーキャンプなどにおける新しいニーズとそれに対応する民間業者やNPOの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者（保護者）の声
- (4) 森林空間を活用した社員研修などの新しい試み
 - ① 森林空間を利用したリトリートなどの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者の声
 - ④ モニターツアーからのフィードバック

3.3 事業者目線で分析する持続可能な森林体験教育の実現と普及に向けた方策

- (1) 森林体験教育サービス提供者の経営改善
- (2) 森林体験教育サービス提供者の人材育成
- (3) 森林体験教育サービス提供者の広報・集客
- (4) 中間業者の役割
 - ① マッチングサイトや旅行代理店における森林体験の販売
 - ② プログラム開発やコンサルティングなどの新しい試み
 - ③ 機会と限界
- (5) ライト層、無関心層に対するアプローチ
- (6) 人と人をつなげ、森林体験教育の振興を図るための仕組みとその類型
 - ① 自然学校・森林教育施設主導型

- ② 森のようちえん主導型
- ③ 地場林産業主導型
- (7) 移住促進諸策との連動
- (8) 新型コロナウイルスの影響とポストコロナ対応
 - ① 事業実施、経営面へのインパクト。
 - ② ポストコロナの森林体験教育。
- (9) 森林環境譲与税の果たすべき役割
- (10) 森林教育の更なる振興のためにできること、すべきこと

(2) 「メディア・企業との協創による「森林 xSDGs プログラム」の発信」の構成

1. 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (1) 背景・目的
 - (2) 実施方針
 - (3) 活動内容（発信を含む）
 - (4) 成果、評価
 - (5) 提言
2. 2050年の未来予想図ワークショップ
 - (1) 背景・目的
 - (2) 実施方針
 - (3) 活動内容（発信を含む）
 - (4) 成果、評価
 - (5) 提言